

平成28年度病害虫発生予察情報・注意報第1号  
(カメムシ類による斑点米の多発生に注意)

平成28年6月29日  
新潟県病害虫防除所

病害虫名 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)

- 1 対象作物 水稻
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生程度 平年比多い
- 4 注意報の根拠

- (1) 6月下旬の水田畦畔すくい取り調査では、カスミカメムシ類の確認地点率は平年比高く、また、すくい取り虫数も平年比多い(表1、2)。  
オオトゲシラホシカメムシは、確認地点率、すくい取り虫数とも平年並。
- (2) 現在の生育状況から水稻の出穂期が早まり、カメムシ類の水田侵入も早まることが見込まれる。
- (3) 向こう1か月の気温は、平年より高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖、活動が活発となると推測される。

表1 カスミカメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(単位：%)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	平28	64.3	84.6	50.0	80.0	16.7	11.1	60.6
	(平27)	(64.3)	(61.5)	(63.6)	(33.3)	(50.0)	(22.2)	(55.5)
	平年	31.6	32.6	44.9	26.5	24.7	6.7	31.8
	平年比	多	多	並	多	並	やや多	多
アカスジカスミ カメ	平28	28.6	69.2	50.0	30.0	25.0	33.3	44.8
	(平27)	(42.9)	(7.7)	(72.7)	(41.7)	(41.7)	(55.6)	(39.6)
	平年	16.3	11.1	36.6	38.7	31.2	30.6	24.7
	平年比	やや多	多	やや多	並	並	並	多

表2 カスミカメムシ類の畦畔すくい取り虫数(単位：頭/20回振り)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	平28	2.5	15.0	16.7	7.5	0.6	1.0	9.5
	(平27)	(3.2)	(2.8)	(15.4)	(3.9)	(1.2)	(0.2)	(5.4)
	平年	4.2	3.1	7.3	2.8	1.3	0.1	3.8
	平年比	並	多	多	やや多	やや少	多	多
アカスジカスミ カメ	平28	0.4	4.4	20.1	9.3	1.3	0.3	7.0
	(平27)	(3.2)	(0.2)	(29.8)	(18.3)	(3.4)	(4.3)	(10.1)
	平年	1.8	0.7	7.8	6.3	2.2	1.4	3.4
	平年比	並	多	やや多	並	やや少	やや少	やや多

※ 表1、2：畦畔すくい取り(病害虫防除所巡回調査、75地点、6月下旬)

## 5 防除上の注意事項

### (1) 水田周辺の雑草管理

ア カスミカメムシ類は、メヒシバ、イタリアンライグラス、エノコログサ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖する。

畦畔・農道等を除草することで、増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らす。

イ イネ科雑草が繁茂している場合は、速やかに草刈りを実施する。また、防除実施前に雑草が繁茂するようなら再度草刈りを行い、除草を徹底する。

ウ 水稻の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続する。

### (2) 水田雑草の管理

水田雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するので早めに除去する。

### (3) 適期の薬剤防除の実施

ア 品種ごとの防除適期に合わせ、確実に薬剤防除する。特に、早生品種では防除適期を逸しないよう注意する。

イ 早生品種の防除時期は、粉・液剤の1回散布の場合は出穂期3日後頃～10日後、2回散布の場合は出穂期の7～10日後と、さらにその7～10日後である（薬剤の種類に応じた散布回数の考え方は、平成28年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参照）。

ウ コシヒカリでは1回散布を基本とし、粉・液剤の防除時期は出穂期3日後頃～10日後とする。

エ 粒剤を使用する場合は、水管理に注意し、早生品種・コシヒカリとも出穂期～出穂期7日後に施用する。

オ 極早生品種や出穂の早まりなどで出穂期が散布日より10日以上早い場合は、共同防除前の加害が懸念されるので、共同防除の7日前頃に追加防除する。追加防除では共同防除とは違う薬剤を使用する。

新潟県病害虫防除所業務課

電話：0258-35-0867

FAX：0258-35-7445

URL：[www.pref.niigata.lg.jp/bojo](http://www.pref.niigata.lg.jp/bojo)